反帝戦線
社会主義学生同盟市大支部発行
No.4
2/19

京大時計台、阪大本部封鎖と結合し市大闘争をさらに拡大せよ

70年安保条約締結に向け大きな政治的流動が転開され、それに規定されたところの政府ーブルの学園に対する帝国主義的再編攻撃に対して全国で巻き起っている学園斗争は、二・三月の入試をめぐって新たな極面を向えんとしており、この極面を突破し、発展させることがまさしく、全国学園斗争勝利への一大突破口なのである。そして、このような時期に全面的に開始されたところの市大斗争は、日共ー民青の大学当局と結託したところの斗争圧殺策動と、これに抗した各学部斗争委員会結成に向けての下からの斗争の昂揚という状況の下に、単なる市大の民主化斗争から全人民的政治斗争への発展、そしてその一大環としての帝国主義的再編粉砕への質的転換を開始しはじめる極面を向えんとしているのである。

それでは、以上の様な点をふまえてまず全国的な学園斗争の状況をみておこう。

〔1〕全国学園斗争の状況

1月18・19日のあの歴史的な安田解放講堂の攻防戦に於いて国家权力ー加藤執行部の斗争に対する武力弾圧によって一時的に後退したかに見えた東大全共闘の戦いは、2月10日の駒場代議員大会で再封鎖を決議し、再度の無期限バリケード封鎖へと発展し、11日には学園斗争の根拠地としての圧倒的な斗争を展開している日大全共斗、中大全中斗と共に、日大斗争勝利・全国学園斗争勝利5万人集会を獲ち取り、今もなお血みどろの斗いを展開している。このような関東に於ける斗いと連帯し関西に於いてもまた、京大、阪大、関学、立命を中心に革命的斗争が斗い抜かれている。

京大に於いては日共ー民青の反革命を粉砕し、本部時計台の封鎖から入試阻止へと永続的斗争を強化し、また阪大においては本部封鎖を断行しさらなる斗争の拡大深化を獲ち取らんとしているのである。そして東大斗争の質を受けつぎ「入試粉砕」を叫んで斗い抜かれた関学斗争は、7・8日の国家权力との死闘の後、遂に9日三千名の官憲の手によって最後の砦「第5別館」を奪い取られたが、全共斗とこれに結集する戦斗的学友の闘魂は決してこのような弾圧に屈することはなく、再び無期限バリケード封鎖でもって斗っているのである。

以上のような全国における全共斗の斗いと連帯し、市大斗争もまた現代の大学機構の全面解体を目指し、時に、三月中教審答申にもとづく学園の目的大学化、大学院大学構想という新たな攻撃を粉砕する斗争へと発展させてゆかなければならないのである。

〔2〕市大の斗争状況

昨日(17日)大学協議会は次のような答申を出してきた。すなわち①学生の拒否権は現代の去体系にふれ、本来的な教える者と教えられる者という立場からも好ましくないので決して認められない。②完全合議制でなく合議制なら認める。③一つの課題に関しては学部段階に下ろし、教員集会を開きその方針にとって対

↓

応することを決定した。そしてまた教室、ゼミナール単位での斗争収拾策動を開始してきた。この様に協議会は今も尚我々の斗争を圧殺する策動にのみ終始し、なんらそのギマン性を変えようとはしておらず、一昨日にも見られた如く、時には日共・民青を使って武力ででも我々の斗争に敵対しようとしているのである。我々はこのような大学当局の態度を断固粉砕し封鎖を貫徹しなければならないのである。

日共・民青、大学当局の斗争圧殺策動とは逆に各学部斗争委員会を中心とした斗いはますます拡大発化されているのである。

すでに文学部斗争委員会は封鎖の開始された段階から医共斗に連帯し、先進的な斗争を行ってきており、これに続いて至者学部、商学部、法学部、家政学部、図書館はそれぞれ斗争委員会、同準備会を結成し、独自の斗争を開始している。また至者、圣宮の大学院生の数名も斗争委員会を結成し、全共斗の下今も尚、封建制の残る大学院での斗争を準備しているのである。全ての先進的学友は各学部斗争委員会に結集し圧倒的な斗争を開始せよ！

[3]

我々の主張と今後の行動提案

市大斗争を単に民主化と拒否権要求の斗争に終らしてはならないのであり、現在行われている教養3号館の封鎖も決して大学当局に拒否権を認めさせるための圧力運動ではないのである。医局十構座制の予算に発端を発した市大斗争の真の勝利は、まさしくこの医局十構座制や病院における差額ベッド、産学共同路線によって企業からの資金導入による諸負研究や、高度成長期における私学の大量増設、マスプロ教育による大量の労働力の確保、そして国大協路線、すなわち教授会の独裁などの事実に見られる如く進行する学園に対する帝国主義的再編の内実をことごとく粉砕する斗争を構築することなのである。またこの様な帝国主義的再編は日本帝国主義の政治的流動に規定され新たなそしてより独裁的な専制支配へと進んでいるのである。この資本主義体制内にあって、ブルジョアイデオロギーの産出と、資本主義生産機構を組織していくための労働者市場としての存在を許されているところの大学をさらに支配者にとって有利な大学へと再構築しようとする動きが見られる。特に三月中教審答申に基く目的大学、大学院大学構想や、権力側から任命された管理者を副学長と国家による学長などというような策動が具体化されようとしているのである。

市大斗争をかかる国家の大学支配構想粉砕の斗争へと昂め上げ、これを実践的に解体してゆかなければ決して勝利を獲ち取ることはできないし、かかる貧の斗争こそがまさに全国学園斗争と連帯し勝利的展望を与える斗争なのである。市大斗争を現代の大学機構内での権利獲得斗争へ拒否権斗争に歪少化することなく学園に対する権力の帝国主義的再編・専制支配粉砕へ向けた永続的斗争へと昂め上げ、さらには地区・政の先進的労働者と連帯し、市大を70年安保粉砕の根拠地としなければならないのである。

2月20日

井上清京大教授講演会

於：講堂

講演内容「70年安保斗争と学園斗争」

全学共斗会議 主催

われる斗争のたん性のもと、我々は、まず21日の京都大学時計台前における全関西学園斗争勝利学生総決起集会と、24日阪大における全大阪労学総決起集会への結集を呼びかけたい。

そして、ここにおいて全関西の学生労働者と共に帝国主義の支配機構を根底的に粉砕するための強固な意志一致を獲ち取り、帝国主義統治機構の解体に向け京大の時計台封鎖斗争、阪大の本部封鎖斗争と同質的に結合し市大斗争のさらなる拡大を押し進めよ。